

これからの中学生期の

スポーツ・文化芸術活動環境の構築

へ向けて

これまでの主な中学生期のスポーツ環境

スポーツ少年団
・
クラブチーム

学校部活動

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

これまでの主な中学生期の文化・芸術活動の環境



学校部活動

文化・芸術活動を続けたい・やってみたい中学生

いよいよ、学校の部活動を
現状のまま続けることは
不可能な時代になりました。

(学校スポーツジャーナル イマ。チャレ、第4号)

これまでの主な中学生期の文化・芸術活動の環境



学校部活動

文化・芸術活動を続けたい・やってみたい中学生

これまでの主な中学生期のスポーツ環境

スポーツ少年団
・
クラブチーム

学校部活動

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

これまでの主な中学生期のスポーツ環境

何を基準に選択していたのか

スポーツ少年団
・
クラブチーム

学校部活動

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

これまでの主な中学生期のスポーツ環境



背景にあるものは・・・

少子化による人口減少

やりたい部活がない

指導者

この制度の限界

廃部による部の減少

教職員の多忙化・
競技経験のない
部活動の指導

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

学校部活動は、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が自主的・自発的に参加し、各部活動の責任者の指導の下、学校教育の一環として行われ、**教師の献身的な支え**により、我が国のスポーツ・文化芸術を担ってきた。

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン 令和4年12月より抜粋」

これまで実施されている対応策

合同チームでの参加

拠点校部活動

この対応策も持続可能ではない

部活動委任指導

部活動指導員

外部指導者

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

学校部活動を

地域クラブ活動へ移行するとは、

今のままでは、中学生期のスポーツ・文化芸術活動を維持できない。

子どもたちの活動する場を守るために、仕組みを考えてほしい。

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する 総合的なガイドライン【概要】

- 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。
- 令和4年夏に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成30年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を提示。
- 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

※ I は中学生を主な対象とし、高校生も原則適用。II～IVは公立中学校の生徒を主な対象とし、高校や私学は実情に応じて取り組むことが望ましい。

I 学校部活動

教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す。

(主な内容)

- ・ 教師の部活動への関与について、法令等に基づき業務改善や勤務管理
- ・ 部活動指導員や外部指導者を確保
- ・ 心身の健康管理・事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶の徹底
- ・ 週当たり2日以上以上の休養日の設定（平日1日、週末1日）
- ・ 部活動に強制的に加入させることがないようにする
- ・ 地方公共団体等は、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力の下、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進める

II 新たな地域クラブ活動

学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。

(主な内容)

- ・ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実
- ・ 地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備
- ・ 指導者資格等による質の高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンクの整備、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業
- ・ 競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に適したプログラムの確保
- ・ 休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定
- ・ 公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減・円滑な利用促進
- ・ 困難家庭への支援

III 学校部活動の地域連携や 地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。

(主な内容)

- ・ まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
- ・ 平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
- ・ ①市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体が取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める
※地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保

- ・ **令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す**

・ 都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

IV 大会等の在り方の見直し

学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた大会等の運営の在り方を示す。

(主な内容)

- ・ 大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるように見直し
※日本中体連は令和5年度から大会への参加を承認、その着実な実施
- ・ できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保
- ・ 全国大会の在り方の見直し（開催回数の精選、複数の活動を経験したい生徒等のニーズに対応した機会を設ける等）

地域クラブ活動への移行に向けた推進スケジュール

R4

R5

R6~7

R8

R9以降

目指す姿

国

- 実践研究事例集の作成
- ガイドライン策定(12月)
- 兼職兼業の手引きの作成

改革推進期間

○まずは休日における地域の環境整備を着実に推進

- ・実証事業等による支援
- ・先進事例等情報提供・自治体への指導・助言等
- ・アドバイザー事務局の設置

- 取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進

県

協議会の開催

移行に向けた課題整理・方針検討

【具体的な支援】

- 実践研究校の課題検証、成果普及
- 指導者研修会等の実施
- 先進事例等の情報提供
- 部活動指導員による支援

県の指針・方針の改定

- ・休日移行の推進方針
- ・地域クラブの環境整備方針

- 実証事業の成果普及
- 部活動指導員任用事業の拡充
- 県コーディネーターの配置
- 体制整備事業の実施

進捗状況の確認、新たな課題への対応

- 休日、平日の移行状況調査

- 国の補助事業（見込）の実施
- 県単独事業の検討

- 平日移行の方向性を決定

平日移行を踏まえた県の指針・方針の改定

市町村

【具体的な取組】

休日

【学校部活動】

- 準備会や協議会等の開催
- 運営団体の設立・運営・関係団体との合意形成・運営団体の設置への準備
- 実証事業や体制整備事業の活用

県の指針・方針を踏まえ推進計画を作成

令和8年度を目途に移行

- 補助事業（見込）の活用

【地域クラブ活動】

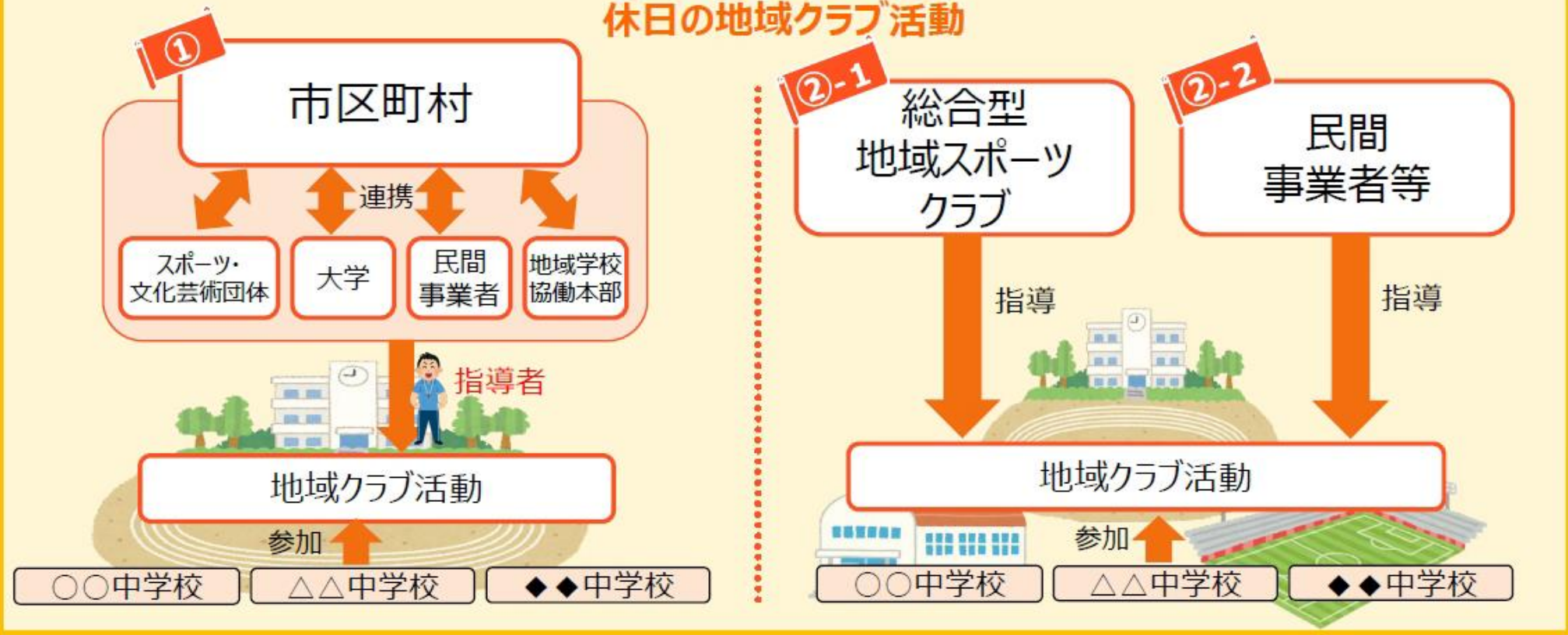
県の指針・方針の改定を踏まえ推進計画を見直し

平日

できるところから移行

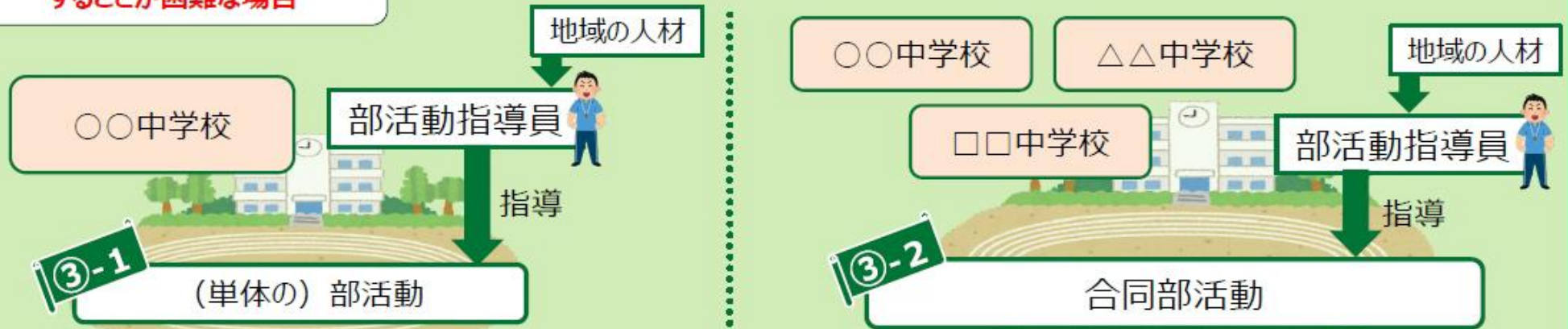
原則として休日・平日ともに、
全ての学校部活動（スポーツ・文化芸術活動）を、
地域クラブ活動へ移行する

休日の地域クラブ活動

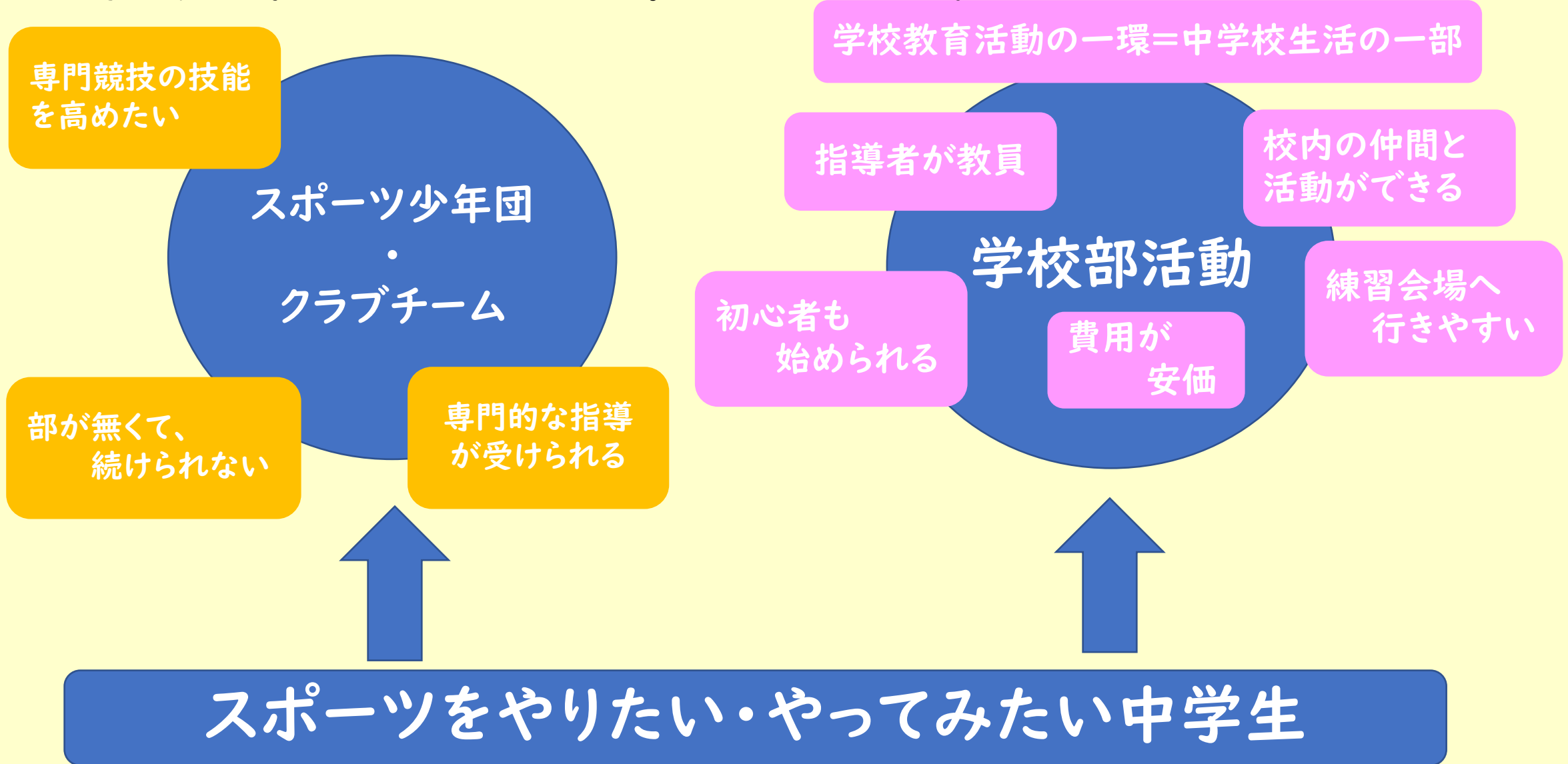


学校部活動の地域連携

※直ちに①②のような体制を整備することが困難な場合



これからの中学生期のスポーツ環境 ～学校部活動から新たな地域クラブ活動へ～



学校部活動を丸ごと移行することは可能？

学校教育活動の一環＝中学校生活の一部

指導者が教員

校内の仲間と活動ができる

地域クラブ活動

初心者も
始められる

練習会場へ行きやすい

費用が安価

丸ごと移行は不可能

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、**生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されることが重要。**

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】より抜粋」

学校部活動を丸ごと移行することではない

部活動の教育的意義とは？

特に、学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高いことも指摘されている。

「中学校学習指導要領 保健体育編 平成29年 7月より抜粋」

生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の 教育的意義を継承・発展させ、 新しい価値が創出されること

社会教育の一環＝生涯スポーツとつながる中学生期のスポーツ

指導者との新たな出会い・
継続指導者

地域クラブ活動

校内外の仲間と活動ができる

初心者も始められる
＝競技力向上だけではない

費用が安価

練習会場へ行きやすい

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

さらに・・・

同じ種目のクラブでも目的に違いを持つ＝多志向

多種目を経験できる

多世代でスポーツができる

社会教育の一環＝生涯スポーツとつながる中学生期のスポーツ

指導者が新たな出会い・
継続指導者

地域クラブ活動

校内外の仲間と活動ができる

初心者も始められる
＝競技力向上だけではない

費用が安価

練習会場へ行きやすい

スポーツをやりたい・やってみたい中学生

課題解決には、考え方の転換と支え合い

今までできなかったスポーツができる

比較対象を、学校部活動ではなく、
クラブ同士の比較へ

指導者が異なる＝
多様な考え方に触れられる

地域クラブ活動

校内外の仲間と活動ができる

初心者も始められる
＝競技力向上だけではない

費用が安価

練習会場へ行きやすい

関係者（行政・保護者・スポーツ団体等）の支え
【費用の補助・負担・送迎の補助・負担】

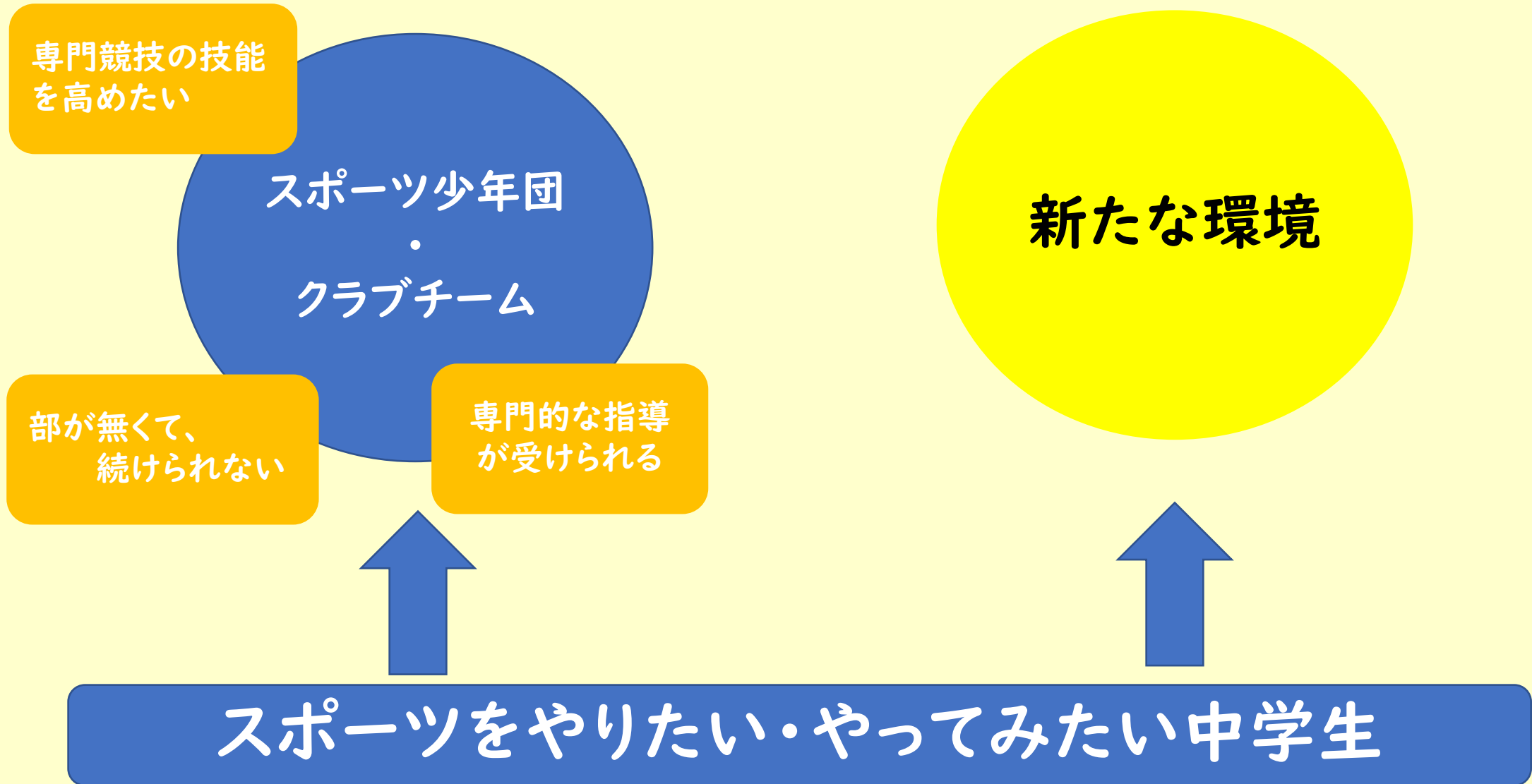
これまでの主な中学生期の文化・芸術活動の環境



新たな環境

文化・芸術活動を続けたい・やってみたい中学生

これからの主な中学生期のスポーツ環境



塩尻市の子どもたちの
未来を創造していきましょう